

「恵み Again」

つまずき倒れる 弱い私
あなたの御手が 支え励ます
それでも前に 進めない時
あなたに 求めます
注いでください
あなたの恵み
もう一度 立ち上がるために
あなたの恵み



李 泳 善 師

IIコリント 12：6～10 「弱さを誇る」



<http://jesus.holy.jp>

2023年6月18日(日)

北九州シオン教会



【新改訳改訂第3版】

- 6 “たとい私が誇りたいと思ったとしても、愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。しかし、誇ることは控えましょう。私について見ることに、私から聞くこと以上に、人が私を過大に評価するといけないからです。
- 7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンを使いです。
- 8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。
- 9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。
- ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。
- 10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。
- なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。”

パウロは自分が出会ったイエス様を伝えることを自分の召命として考えました。

バルナバという人はそのパウロを招待し、アンティオケ教会で一緒に働きました。

アンティオケ教会は聖霊で満たされ、礼拝は復興していました。

しかし、聖霊はパウロとバルナバを別に立て、

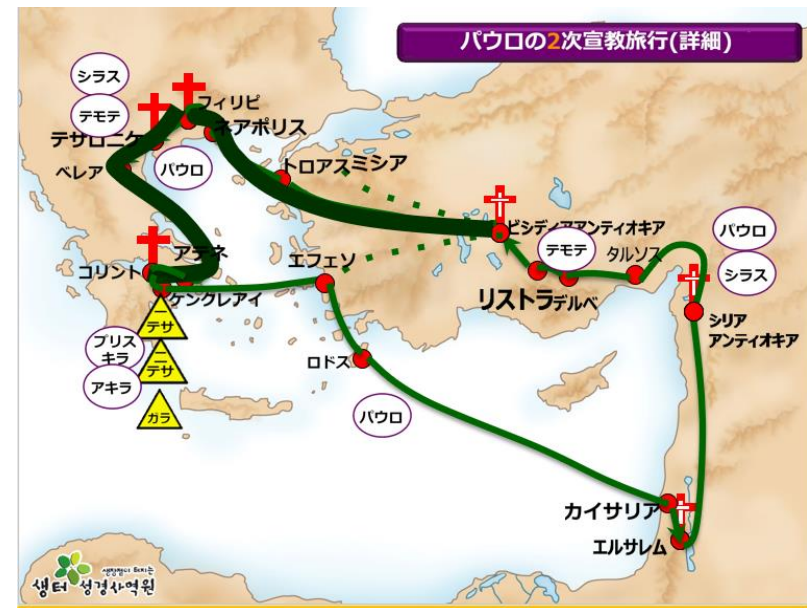
宣教師として派遣するように命じます。

アンティオケ教会はその二人をそれぞれ立てて派遣をします。

このようにしてパウロは1次伝道旅行をするようになります。



パウロは2次伝道旅行に行きます。



2次伝道旅行は

1次伝道旅行で建てられたガラテヤ地域の教会を慰め、
今度はエペソ(エフェソ)地域に行こうとしました。
エペソ(エフェソ)はその地域で最も重要な都市だったからです。

しかし、聖霊がその地域に行くのを止めました。
結局、パウロはトロアスまで来ました。
しかし、驚くべきことに、パウロは真夜中にマケドニア人が渡って
私たちに助けをくれと言っている夢を見ました。
マケドニアは海を渡って行くヨーロッパ地域を意味します。
パウロは聖霊が命じられていると信じて
従順で予定されていなかったピリピ(フィリピ)に行きます。
ここで教会が建てられました。
テサロニケに行き、そこにも教会が建てられます。
ところが、福音が伝播され驚くべきことがあると同時に、
ユダヤ人の迫害が強くなりました。
結局、パウロはアテネに行きました。
コリントに入ります。

ところが神様はそこで ブリスキラとアクラ夫婦に会わせてくださいます。
このようにして働きながら、コリントに教会が建てられ、
驚くべき復興が臨みました。
それでも、パウロは2次伝道旅行をして非常に疲れしました。
しかしイエス様は幻想の中でパウロに言われます。
恐れずに言い続けなさい…
私はあなたを守るでしょう。
この都市には私の民が多い。
パウロはこの言葉を聞いて、とても大きな力を得ました。
それでパウロはコリントに1年半留まって神様のみことばを教えます。

そしてパウロはエルサレムに行き、再びアンテオケ教会に戻ります。

パウロは再び3次伝道旅行を準備します。



今回は前回行かなかったエペソ(エフェソ)に行くことになります。
そこでユダヤ人のシナゴークで3ヶ月間福音を伝えました。
しかしユダヤ人は心を頑なにし、パウロを迫害しました。
それで、パウロは異邦人が使用するツラノ書院で
毎日聖書を教えています。
このツラノ書院での聖書研究は2年間行われます。
ところで、ここで驚くべきことが起こります。
邪悪な霊が去り、病気が良くなり、
驚くべき聖霊の働きが成し遂げられるのです。
イエス様を信じ、洗礼を受け、偶像崇拝者たちが悔い改め、
魔法の本を燃やして…
主の御言葉がますます力強く広がっていきました。

そこで霊的な攻撃が来ます。
エペソ(エフェソ)のア데미女神の人形を作る人々が
人形が売れないのです。
それで、彼らは暴動を引き起こします。
パウロはその理由でエペソ(エフェソ)を離れなければなりませんでした。

ところが、このことがある前に、
もう一つ重要なことがコリントで起こりました。
それはコリント教会で分裂が起こったのです。
私はパウロ、私はアポロ、私はペテロ派、私はキリスト派です…
このように分裂して
互いに対立しているのです。
また、コリント教会で淫行の問題が起き、
偶像に捧げられた肉を食べて良いのか… いけないのか…
聖霊の賜物に対する考えの違い、
このような多くの問題で、コリント教会が困難を経験していたのです。

それで、パウロがエペソに3年いる間に
コリント宛てに書かれた手紙がコリント人への手紙です。
この手紙をコリント教会に送った後、
コリント教会は静かになりましたか？
いいえ。
むしろ、パウロは本当の使徒ではない… 偽物だ…
このような噂がコリントから聞こえるのです。

パウロはそれでコリントを訪れたようです。
これは、2次伝道旅行の際に訪れてから2回目の訪問になります。
しかし、うまく解決したのでしょうか？ うまくはいきませんでした。
それで、パウロは再び訪れることを約束し、コリントを去ります。

ところで、3度目にコリントを訪れることはできませんでした。
代わりに、パウロはコリント教会に「涙の手紙」を書いています。
この手紙が存在すると聖書にありますが、その内容は不明です。
このような「涙の手紙」を書いた状況の中で、
エペソ(エフェソ)の暴動によって、
パウロはエペソ(エフェソ)を去るのです。
パウロの心は、おそらく非常に複雑で、痛んだことでしょう。
なぜならコリント教会が非常に難しい状況であり、
エペソ(エフェソ)でも暴動が起こり、
今急いでマケドニアに移動するからです。

パウロがマケドニアに移動したとき、「涙の手紙」を持ってコリントに行った
テトスは、コリントからマケドニアに来ました。
それでパウロはそこでコリント教会の知らせを聞くようになったのです。
テトスの言葉によると、
コリント教会の問題はある程度うまく收拾されました。
「涙の手紙」を読んで、教会員が変化したのです。
それは本当に教会を攻撃する人々に対して
断固とした態度を取ったのです。
ここでパウロが書いた手紙はⅡコリントです。
Ⅱコリントには、パウロの複雑な心情がよく現れています。

パウロはコリント教会でパウロを攻撃した人々の言葉に対して
弁護をします。
では、パウロは今までどんな攻撃を受けましたか？
1)パウロは使徒たちの推薦状がない… だから偽者だ。
2)有名なアテネの先生は高額な講義料を取りますが、
パウロはお金を受け取りません。
3)パウロはお金を横領する。

4)パウロは言葉が不明瞭だ…

こういう非難を聞き続けたパウロは、
実際に言いたいことも多かったでしょう。

彼はユダヤ人、パリサイ人、ガマリエルの弟子であり、
ローマの市民権を持っています、

3回、天国を直接見た、霊的な巨人なのです。

しかし、パウロは、

自分が誇るものは弱さしかないと言うのが今日の本文です。

6 “たとい私が誇りたいと思ったとしても、

愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。

しかし、誇ることは控えましょう。

私について見ることに、私から聞くこと以上に、

人が私を過大に評価するといけないからです。

パウロは言いたいことがたくさんありました。

しかし真実を言っても、それが聞く人によって、

パウロを過大評価するからです。

パウロはここで一度、キリストの謙遜を思い出しました。

7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。

そのために私は、高ぶることのないようにと、

肉体に一つのとげを与えられました。

それは私が高ぶることのないように、

私を打つための、サタンの使いです。

それからパウロはここでまったく違う話をし始めます。

実はパウロには大きな肉体の病気があったのです。

それをパウロは「とげ」と表現しています。

「とげ」は大きなものではありませんが、

小さくて鋭く、体の中に入り、ずっと自分を刺すのです。

体の中で私を突くことは、どれほど私たちを苦しめますか？

パウロにはそのような苦しみがありました。

しかしパウロはこの苦痛を旧約聖書に出てくるヨブのように解釈します。

サタンのライオンだが神の主権の中にありながら、

自分を高慢にしないサタンのライオンだと解釈します。

ずっと前、ハ・ヨンジョ牧師がよくこう言われました。

苦しみが痛いのは「解釈」されないからです。

痛みが「解釈」されると、痛みは、もう痛みではありません。

8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、

三度も主に願いました。

9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。

というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」

と言われたのです。

ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、

むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

ところがイエス様の答えは意外でした。

私の恵みはあなたに足りるということです。

これは例えば、このコップが水でいっぱいです。

その後、どんなに水を注いでも、もはや水がコップに入りません。

つまりこのコップに水がいっぱいあるというのは 100%という言葉です。

神様がパウロに注いでくださる恵みは 100%ということです。

パウロが考える時は、不足しているものも多く、大変なものも多く、

恐ろしいものも多く、痛いことも多いです。

それで、より豊かで、より力を得て、より勇気を得て、

この痛みが消えたら…。その時が 100%の恵みだと思っていたのです。

ところが、大変で、痛み、不足、弱い…。その今が 100%ということです。

その理由は、イエスの力はパウロが弱いときに完全に現れるからです。

ああ！ 私が弱いから祈るようになり、

私が弱いから高慢にならず、他人の助けを謙虚に受け、

私が弱いから、もっと神様に頼り、みことばに従順になるのです。

それでパウロはこう言います。

10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、
困難に甘んじています。

なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。”

キリストのために弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難…

このすべてを喜ぶとパウロは言います。

なぜなら、これらのことによってパウロが柔らかくなったとき、

イエス様の力と聖霊様の助けが臨むので、

むしろパウロが強くなる可能性があるからです。

パウロは今この言葉を自分を弁護したり、

論理的に正当性を語ったりするものではありません。

パウロのこの 10 節の発言の後には、

実はコリント教会に向かった熱い愛があります。

教会はイエス様が血の値を与えてくださったのです。

教会は殉教者と宣教師の血と汗の上に建てられました。

教会は聖徒たちの祈りと涙で建てられました。

教会はこの世の願いです。

教会でなければ、誰が福音を伝えることができますか。

私はミッションスクールで働いていますが、

教会がなければミッションスクールは

両足のうち片足が欠けてしまいます。

教会があつてミッションスクールも存在するのです。

教会はですから本当に大切なものです。

本当にイエス様の福音を信じる学生が救われたならば、地域教会がそ

の学生の世話をして成長させ、献身させなければなりません。

パウロはコリント教会への熱い愛と涙を持って今この手紙を書くのです。

パウロはコリントの手紙をコリントに送った後、コリントを訪問します。

パウロの心の中には 2 つあります。

第一は、嘘を広げて教会を困難にした人々が悔い改めることです。

第二は、このような困難によってパウロもコリント教会も互いに成長し、

成熟して会わなければならないということです。

私はこの言葉を通して二つを分かち合おうと思います。

まず、福音が勝利するということです。

ヨハネの黙示録は私たちにその事実を伝えませんか？

結局、バビロンも世とサタンも獣もすべて消えて

この世の最後の日に勝利するのは聖なる聖徒です。

私たちは信仰を持って最後の日まで行かなければなりません。

弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難

こういうものがいくら多くても結局勝利するのは信仰なのです。

私たちはすでに勝利を手を持っている圧倒的な勝利者です。

それで難しさがあっても勝ちましょう。

第二に、私たちは成熟して成長することです。

私は足りない人です。

私たちは不足しています。

しかし、それはすべてではありません。

私たちは、主がくださる力と知恵によって成長する人々です。

弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難

こういうものが私たちを難しくしても、その中でむしろ成長します。

私たちは弱いので、その中で成長して成熟することです。

イエス様は私たちを愛して、十字架で命を与えられました。

私たちは命を尽くし、主の教会を愛します。

主の愛と私たちの愛が出会うこの場所で

難しさと苦しみは、この愛を完成させるツールです。

完全な愛の中で、私たちは自分の柔らかさを誇ることができます。

なぜなら、主の中で私の弱さは強さになるからです。

皆さんの上に恵みと愛が満たされることを祈ります。